

平成26年度 校区外部評価結果

品川区立第四日野小学校

評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	◇「読み」「書き」「計算」を中心とした基礎・基本を確実に定着させる。今年度は特に、読解力の向上を目指す。 ◇「聞く・話す」のけじめを徹底させ、学習の密度を高める。 ◇常に授業改善に努め、思考・判断・表現力を向上させる。 (「前のめりになる、没頭して考える・活動する、発表したくなる」授業の実現)					
	評価指標 (成果指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 学力定着度調査等における「読解」に関わる問題について、習熟基準を達成する児童を80%以上にする。	B	読解力向上のため、各学年毎に工夫して指導を進めてきた。習熟の程度は学年によって差がある。	子どもたちの状況を分析・検討しながら継続して取り組んでいってほしい。	各学年ごとの工夫を共有して、全教員の指導力向上につなげていきたい。	今後も学力調査等により個の変容を経年で見とり、適切な指導による読解力向上をめざしていく。	
② 連携三校で実施する計算検定の達成率を85%以上にする。	B	2～6年生を対象に実施。3つの学年で達成率85%を上回った。	はげみ学習や少人数制のきめ細かい指導が定着し、具体的な成果となって現れている。	はげみ(計算練習の時間)、算数の授業で繰り返し指導し、成果につながった。	定着してきた計算力をもとに、今後はさらに思考力の向上をめざす。	
③ 授業態度について、保護者対象アンケートを実施。肯定的な回答を80%以上にする。	B	肯定的な回答80%を上回った。姿勢については、全学級で姿勢を直す時間を授業前後にもっている。	各学年がそれぞれの状況に応じて指導の工夫をし、定着してきている。基本の姿勢はよくなってきているが、字を書く際に崩れる様子が見られる。	着実に成果が出てきていることを感じた。今後も継続して、授業規律の定着、書字姿勢の改善に努めたい。	繰り返し、継続した指導により習慣化する。さらに新年度は、語尾まできちんと話す態度の一層の定着をめざす。	
④ 学習意欲について、児童対象アンケートを実施。肯定的な回答を80%以上にする。	B	肯定的な回答80%を上回った。学習意欲を高めるための工夫を各学年で行っている。	ICT機器の活用がきっかけとなり、学習に意欲を示す児童が増えた。一方で操作に苦労する姿も見られた。	今後は、児童が自らの考えをICTを活用してスムーズに表現できるようにし、学習の充実と意欲向上につなげたい。	学習意欲の喚起・表現活動の充実を柱に授業改善に努め、授業水準を高める。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	◇『四日野っ子のちかい』をもとに、全校で一一致した生活指導を推進し、社会での基本的なマナーやルールを守る態度を育てる。 ◇学級集団での関わり、学年・学校を越えた他者との関わりを充実させ、自尊感情を高めるとともに、他者を尊重する態度を身に付けさせる。 ◇年間を通じた健康教育、体力増進の取り組みを推進する。					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 「返事・あいさつ・よい姿勢」を重点目標とし、年間を通じて指導する。年3回の強化月間には「がんばりカード(評価表)」を基に家庭と協力して指導・評価を行い、定着を図る。	B	教員自ら、手本となるあいさつをすることで、相手の顔を見てあいさつできる児童が増えてきた。姿勢についてのアンケート結果や、学校での取り組みを保護者会資料としてだし、啓発を図った。	統一した指導方針のもと、基本的な生活習慣はおおむね身につけてきている。あいさつの意義について理解させる指導の工夫があるとよい。	保護者との連携を図って指導を進めてきたことが成果につながったと感じる。	教師による率先垂範とともに、市民科授業も一層充実させ、明るいあいさつの通い合う学校をめざす。	
② 自分や学級の課題を自ら考え、自分たちで解決しようとする態度を身に付けさせるために、市民科授業の工夫・改善を図る。	B	行事や実態に合わせて、他教科との関連を考えながら、計画的に指導している。	子どもたちの考える力や自分たちで解決しようとする態度が市民科や行事等の工夫によって高まってきている様子がうかがえる。	児童が実践場で、学んだことを生かしている姿を励まし、価値付けをしていく。	日々の授業、市民科活動、行事などあらゆる場面で、自ら課題に向かい解決する経験を積み重ねられる指導を、今後も追求する。	
③ 異学年交流やたてわり班活動、異校種や異年齢の方々との交流を充実させ、認め合う(認められる)経験を多く積ませる。	B	異学年交流グループで定期的に遊ぶ、給食を食べる、遠足に行くなどの活動を行っている。リーダー役の6年生はこの経験を通して着実に成長した。	行事の後には異学年で良かった点などを記した手紙が交換され、お互いを尊重する気持ちが育まれていると感じた。	意図的、計画的に異学年交流をすすめ、高学年の自己肯定感を高め、低、中学年の向上心を育む機会として一層充実を図っていきたい。	互いのよさを認め合う場を今後も充実させる。また何より教師が児童のよさを適切に評価することをさらに心がけ、手本となる。	
④ 年間を通じた休み時間の外遊びの徹底、手厚い水泳指導、養護教諭を中心とした計画的な健康教育や食育の展開などにより、健康な子を育成する。	B	全教職員が共通理解のもと、児童の健康教育に当たっている。外で体を動かして遊ぶこと、給食を適切に食べることを継続して指導してきた。	保健室前の掲示物が毎回とても工夫されていて、自ずと健康について興味を持てるよう促されている。	主幹養護教諭を中心に、今後も健康教育の充実を図っていききたい。	日々の欠席者数、給食での残菜の状況など、データも効果的に活用し、指導を進めていく。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 小中一貫教育の推進

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	◇児童一人一人に十分な学力と社会性・人間性を育成し、7年生に進級させる学校となる。 特に、10歳の区切りを意識し、意図的・計画的な指導を展開する。 ◇連携グループでの研究・研修を通し、教員同士の連携を充実させ、共通の指導を行う。					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
①	B	理科、社会の交換授業、中学校教員による柔道の授業を行い、成果をあげることができた。	小中一貫教育の推進に向けて、教科担任制の導入や連携校間での研究・研修、情報交換等に取り組みされており評価される。	中一ギャップの解消につながる中学校進学を見据えた指導を今後も続けていきたい。	今年度、天候の影響で、6年生の連合陸上大会を連携小学校3校で実施したことで、小・小連携のよさを改めて感じるようになった。新年度は「英語」を切り口に、さらに連携を進め、小中一貫教育の推進に努める。	
②	B	児童・生徒の情報交換を基に、小学校で身に付けておくべきことについて考え、共有することができた。	小中間の教員の交流が活発に行われ、広い視野と新たな視点での指導につながった。	中学校や近隣小学校の教員との交流が新たな学びにつながった。		
③	B	全学級に姿勢指導を行い、全学級統一した姿勢を直す時間を授業前後にもっている。また水曜日には姿勢タイムを1分間入れている。	連携四校の統一方針で「腰骨を立てる」をキーワードに学習の基本的な構えの指導を展開しており、一定の成果が見られる点も評価される。	共通テーマをもつことで、指導すべきことが明確になり、取り組みやすかった。今後も継続していきたい。	着座時の正しい姿勢に対する理解が、児童・教員共に定着した。今後も継続する。	
④						

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	◇学校を開き、教育活動の「見える化」を促進することで、保護者・地域からの信頼を得られるようにする。さらに、教育活動や児童の姿を以て、選択される学校を目指す。 ◇行事や面談など様々な場面で、職員が自らを開き、保護者や地域との相互理解を密にできるようにしていく。					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
①	B	商店街でのお店体験、工場見学、スーパーマーケット見学等、地域の協力を得ている。近隣の林試の森公園を理科、生活科で活用している。	商店街でのお店体験では、より地域に親しみのもてる経験となった。	これまで取り組んできた地域人材を活用した活動は、継続して取り組んでいく。	新年度は開校90周年の年である。地域の学校であることに、児童が改めて気付くことができるよう、授業を展開させていく。	
②	B	学校、学年便り等に加え、大きな行事の際には別途通知を配布した。ホームページの更新頻度を上げ、児童の様子を中心に常に新しい情報を伝えるように努力してきた。	さまざまな機会・ツールを活用して保護者・地域への情報発信と説明、理解を求める取り組みがなされており評価できる。	保護者や地域への発信は今年度同様に行っていく。発信方法でよい方法があれば、年度途中でも取り組んでいく。	保護者や地域からの信頼を一層獲得するために、今後も教育活動の「見える化」に努める。	
③	B	保護者との共通理解を図るための時間を多くとった。また、必要に応じて個別にも話し合う機会を設けてきた。	家庭訪問は、担任が児童の様子を知る良い機会となった。2学期以降、個別面談を設けられると、さらに相互理解につながると思う。	保護者との連携を図るため、情報交換の機会を増やしていきたい。	新年度は、年度当初の家庭訪問に加え、2学期後半に全保護者との個人面談も実施し、相互理解を深めることができるようにする。	
④	B	多くの保護者・地域の方に参観していただき、子どもの頑張りを見ていただくことができた。	学期ごとの行事を工夫し、多くの保護者や地域住民が参加する機会が増え、高い評価を得ている。今後も工夫しながら取り組んでほしい。	今後も、開催日時や、周知方法を工夫して、より多くの方に来校していただけるよう工夫していく。	地域コミュニティの中心としての学校となるよう、今後も取り組んでいく。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 環境整備・美化

本校の基本的な考え方 (重点的な取組内容など)	◇児童が安全に過ごせるよう、常に「安全確保」の高い意識を持って、点検・改善を行う。				
	◇児童の豊かな学びに資する、校内美化・校内整備・掲示物の充実に努める。				
評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
① 休み時間の看護当番活動や毎月の安全点検を確実に実施し、組織的に安全の確保を図る。	B	安全点検を毎月実施した。危険箇所や、不具合は発見次第、迅速に対応し、安全確保につとめてきた。	毎月の安全点検が確実に実施されており、安全面での配慮も評価される。	日々の点検とともに計画的・組織的な取り組みを今後も継続して取り組んでいく。	看護当番による見回りなど、日常のルーティンな安全確認を確実に実施できるよう、組織としての力を高めていく。
② 児童の学びの成果が表れ、相互評価の場ともなる掲示を工夫する。また、季節や時節に応じた掲示も充実させる。	B	廊下や教室内の掲示板に児童の作品を掲示。玄関に液晶スクリーンを設置し、学習の様子を常時上映。1F廊下に児童手作りによる「季節の風物詩」掲示。	掲示物が季節感あふれる、情緒豊かなものが多く、とても和やかな気持ちにさせられる。一部、年間を通じて同じ掲示物がある。	掲示物を計画的に更新するなど、さらに有効活用していきたい。	視覚情報の大切さを教員一人一人がしっかりと認識し、掲示等を工夫できるようにする。
③ 屋上ガーデンやはらっぱを持続的に整え、児童の学習での活用を促進する。	B	ボランティアの方に協力していただき維持管理している。食育の学習で活用している。	授業の一環で利用することがあれば、より活性化する可能性がある。授業で学習できる機会をさらに増やせることを期待する。	今後、活用方法などについて充実を図っていきたい。	ガーデンマスターの方々と教員の連携を進め、学習での活用をさらに増やしていく。
④					

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 いじめ防止に関する取組み

本校の基本的な考え方	◇「いじめは起こる」という前提に立ち、未然防止および発生時の迅速な対応に、全力を尽くす。				
	◇すべての児童が、いじめを自分のこととして受け止め、自分たちで防止・解決しようとする力を育成する。				
◇互いを認め尊重し合う学校・学級の風土を作る。					
評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
① 学年ブロック会や週2回のSCを交えての職員打ち合わせなど、情報共有を常時密にし、早期発見・早期対応を行う。	B	職員間の連絡を密にし、児童理解に努めてきた。	教員は児童の小さな変化も見逃さずすぐに対応できるよう、一丸となって取り組んでいた。	児童に関する情報交換を日常的に行って、見守ってきた。問題解決にあたっては複数の教員で協力して対応してきた。	「いじめは起こる」という前提を常に想起し、未然防止および発生時の迅速な対応に、今後も全力を尽くす。
② 生活アンケート、担任による子供面談、SCによる全員面談など、児童が気持ちを伝えられる場をできる限り確保し、早期発見に努める。	B	年2回担任が学級児童1人1人と面談する機会を設定している。会議の回数を減らし、子どもと過ごす時間の確保を図った。	さまざまな取り組みが組織的になされており評価される。	予防、早期発見のための取組みを着実にやってきた。	例え短時間でも、「全員と」話すことを大切に、今後も現在の取り組みを行っていく。
③ 市民科授業を中心として、「いじめ根絶宣言」の達成に向けた指導を計画的に展開する。	B	NHK「いじめ防止キャンペーン」に参加した。全児童が、いじめをなくすための方法を考え、「行動宣言」を発表した。	子ども自身が自らの問題としていじめ問題を考え、自分たちで防止・解決しようとする力の育成に向けての取り組みも評価される。	今後も市民科の学習を中心に、様々な形で児童の意識を高める指導をしていく。	自分だけでなく、「みんなが楽しい学校」であることをめざし、常に子どもたちに考えさせる指導を継続する。
④ 児童に正対し、まずは教師がそれぞれの児童のすべてを受容する姿勢を示す。	B	学校生活で児童に生じる様々な問題に対し、教師一人一人が粘り強く、丁寧に指導してきた。	教師が範を示し、互いを尊重し合う態度の育成に努めている。	教員が児童の手本となるよう心掛けて指導してきた。	何より教師が児童のよさを適切に評価することをさらに心がけ、手本となる。(再掲)

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目7 学校独自の特色ある教育活動

本校の基本的な考え方	<p>◇今年度後半より全教室、全児童に導入されるICT機器を効果的に活用し、児童の学習意欲を高め、児童がよりよく考える授業を展開する。</p> <p>◇近隣の保育園との連携・交流を一層推進し、児童の学びの連続性を担保し、滑らかな接続が図れるようにする。</p> <p>◇学校ボランティアをさらに活用し、地域とともにある学校作りに努める。</p> <p>◇来年度に迎える90周年を視野に、行事などを通して期待を高めていく。</p>					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
①	B	ICT機器を活用した指導について、全教職員で協力して研究を進めてきた。授業での活用が定着してきた。	ICT活用推進校として9月以降取り組んできたが、授業等の場面での活用を中心に一定の成果が見られる。操作技能の差への対応が課題。今後も効果的な活用に向けていっそうの研究と実践に取り組んでほしい。	児童のICT活用能力向上のための指導を計画的に行っていく。	新年度は、表現の道具の一つとしてICT機器を活用し、表現することを通して、児童の「考える」力を伸ばしていく。	
②	B	毎年継続して実施してきたことで、保育園との相互理解が進み、円滑に運営できている。モーニングコンサートに近隣保育園が立寄る姿も見られた。	保育園との交流に継続して取り組んでおり、本校選択の一因として効果が表れているといえる。今後は内容面でより一層の充実を図ってほしい。	交流活動から得るものは大きい。今後も充実を図ってきたい。	保育園との交流活動では、事前・事後の指導者同士の打ち合わせが円滑にできるようになってきた。今後も交流を継続・充実させるとともに、本校教員の指導力向上のための機会の一つとしていく。	
③	B	学習支援、読書活動、交通安全等ボランティアの方の協力を得て、教育活動が充実した。	地域人材、保護者と協力した学校づくりが継続して進められている。今後も効果的な活用を図ってほしい。	学習支援での活用については、より効果的な活用法を考えていきたい。	学習支援ボランティアは、新年度で4年目を迎える。児童の学習にとってより有効で、また、ご協力いただくボランティアの方にとってもさらにやりがいを感じる場となるよう、工夫していく。	
④	B	開校記念集会は同窓生の協力を得て、本校の歴史を意識する会として成功できた。90周年を迎えることについて、年間を通じて周知を図ってきた。	開校90周年に向けて同窓会との連携を含めた準備も着々と進められており、来年度が期待される。		いよいよ当該の年度を迎える。児童も教員も、歴史の繋がりの中の一員であること、そして次へ繋げる務めがあることを学ぶ一年としていきたい。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

その他 お気付きの点を自由にお書きください。

昨年度後半の反省もあってか、今年度は教員の入れ替えも多く、フレッシュな引き締まった雰囲気でのスタートとなった。児童や保護者の中には雰囲気の違いに最初は戸惑いを感じる者もあったようだが、保護者会や個別の対応を重ねるうちに徐々に理解も得られるようになった。一部でなかなか成果が得られない学年もあったが、担任の教諭があちこちに出向き話し合いの機会をもつなど奔走している姿を見る機会が多く、非常に誠意を感じた。

兄弟で別の学校に通わせている新一年生の保護者にとっては、他校に比べてゆったりと落ち着いた雰囲気を感じる・子供がのびのび過ごしているなどの印象を持ったとの声も聞かれ、学校の雰囲気づくりや日々の努力が、来年度の入学も2学級になるという成果に結びついた。

人数が増えると、きめのこまかな指導ができなくなるのではないかと、懸念される声も上がっている。質を落とさず、今までと同様かそれ以上の成果が得られるような教員やボランティアの配置や指導方法を今後考えていく必要がある。

保護者が学校に、過度の期待を持つ家庭が増加しているように感じる。学校と保護者と地域の間に、認識のずれがないか、教員の指導方針を事あるごとに開示して理解を求める必要がある。学級通信など連絡事項の羅列にとどまらず、教員の率直な気持ちや熱意を伝えるにはとても自然なツールになると思う。今後、さらに活用して学校でも家庭でも、地域でも共通した価値観で児童を指導できるとさらに良いのでは感じる。

